

## 第 8 回群馬がん看護フォーラム

日 時：平成 23 年 5 月 28 日 (土) 13:00~17:00

会 場：群馬県立県民健康科学大学

主 催：群馬がん看護研究会

理事長：神田 清子 (群馬大院・保・看護学)

### メインテーマ：生活者としてのがん看護を支える看護

#### 《特別講演 I》

座長：神田 清子 (群馬大院・保・看護学)

#### がん治療における補完代替医療

～正しく活用するために～

大野 智 (早稲田大学 先端科学・

健康医療融合研究機構)

近年、患者の治療選択における自己決定意識の高まりに加えインターネットの普及によって個人による健康・医療情報へのアクセスが容易になったことから、我が国において補完代替医療※ (Complementary and Alternative Medicine; CAM) の利用者が急速に増加している。

厚生労働省がん研究助成金研究班の調査によると我が国のがん患者の約 45% が CAM を利用していることが報告された (JCO 2005)。また、我が国に特徴的な点として CAM の利用内容において健康食品などの機能性食品の利用頻度が非常に高い (95%) ことが明らかとなった。つまり、我が国のがんの補完代替医療の利用実態は、キノコ類、プロポリス、漢方、ビタミンなどの機能性食品が主流となっている。そして、患者の多くは、利用している機能性食品などの CAM に対して、がんの進行抑制、治癒、症状緩和などの効果を期待しているものの実感を得られている患者は少なく、なかには健康被害に遭っている患者 (5%) もいた。

さらに、この調査では、およそ 60% の患者が十分な情報を得ることもなく、また主治医に相談することもなく様々な CAM を利用していることも明らかとなった。このような現状を踏まえ、医療従事者と患者は、CAM の利用について積極的にコミュニケーションを図る必要に迫られている。しかし、医師をはじめとする医療従事者の

CAM に対する認識・知識不足または無関心などから、医療機関からの適切な情報提供は殆ど行われていない。そのため、患者やその家族は、正確な情報を得ることなく不安を抱えたまま CAM を利用している実態があり、多くの課題が残されている。

今回の講演では、以下のトピックについて概説する。

- ①がん患者は何をきっかけにどのような CAM を使っているのか?
- ② CAM は、本当にかんに効くのか?
- ③がんの医療現場における CAM を取り巻く問題点
- ④がん患者が CAM を利用するにあたっての注意点
- ⑤ CAM に関するコミュニケーションのコツ

#### ※補完代替医療 (CAM) の定義

現段階では、通常医療と見なされていない、様々な医学・健康管理システム、施術、生成物質など

(出典：米国国立補完代替医療センター)

#### 《特別講演 II》

座長：鈴木 伸代 (群馬大医・附属病院・看護部)

#### オストメイトが安心して暮らせる社会づくり

—医療関係者や行政への期待—

大島 主好 (群馬あかぎ互療会：日本オストミー協会群馬県支部)

【自己紹介】 身体障害者で内部障害の「疾病による直腸機能障害」です。昭和 19 年 (1944 年) 生まれの 66 歳の男性です。別の表現ではオストメイトでコロストミー (人工肛門造設者) 術後 23 年経過しています。お腹に袋を付けていますが、有袋類のカンガルーではありません。